



トライアスロンと環境問題



2005年4月3日

社団法人日本トライアスロン連合 環境委員会

環境委員会の位置づけ

国際オリンピック委員会(IOC) スポーツ環境委員会
委員長: パル・シュミット(ハンガリー)

日本オリンピック委員会(JOC) スポーツ環境委員会
委員長: 水野 正人

JTU環境委員会 (2002年設立)

*現在JOC加盟50競技団体で環境委員会があるのは **14** (04年3月現在)

環境委員会設立までの経緯

2001年11月3～4日

「第4回スポーツと環境世界会議」長野市で開催

21世紀のスポーツ活動に伴う環境保全活動の方針として「長野宣言」を採択。(大気汚染、水質、地球温暖化、資源と消費、紫外線)

2001年11月17日

JTU理事会で環境委員会の設置承認

2002年6月:

JTU社員総会で委員会設立報告

(7名の委員と10名のブロック連絡員)

JOCスポーツ環境委員会

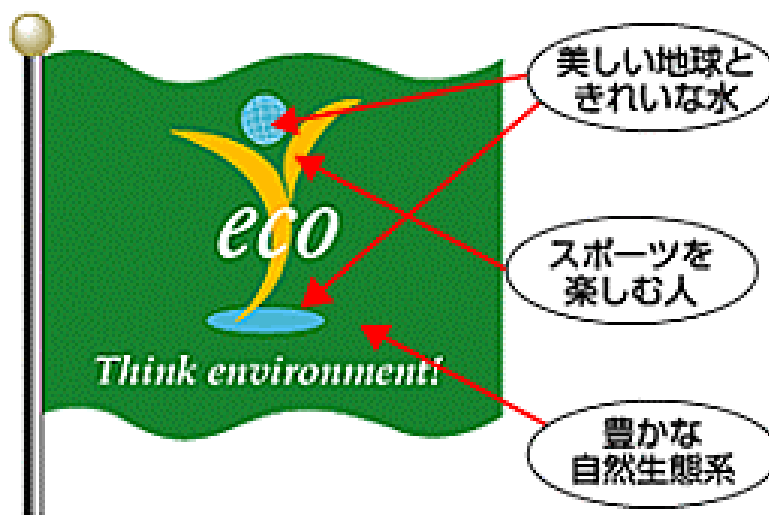


スポーツと環境の共生は可能です。
そのために**スポーツマンとして環境問題を理解し、環境保全活動の啓発・実践を推進**お願いします。

環境保全は終わりのない活動と言われるほど、将来にわたって気を長く持ち、**忍耐力、継続力の必要な活動**だからです。我々の保全活動も完璧に出来るものではないことは良く理解しています。よって、一步一步より多くの皆さんにまずは理解をして貰い、そして保全ノウハウをしっかりと身につけてもらえるように気の長い活動をしなければならないと思っています。

その他のスポーツ環境推進団体

NPO法人グローバル・スポーツ・アライアンス



私たちスポーツ愛好家は、きれいな水と空気、すなわち地球環境の大切さを知っています。そして、未来世代のためにも、開発やビジネスなどの人間活動が自然生態系を破壊し、環境を汚染しないような新しい社会を創りたいと願っています。

環境委員会の取り組み

環境の3R トライアスロンの3R

- Reduce(削減)
ゴミ、ガソリン、、、
- Reuse(再使用)
バイク、ヘルメット、スポンジ、設営資材 等
- Recycle(再利用)
トライアスロンで再利用できるものは???

環境委員会の取り組み

- Reduce(削減)

ゴミの削減
ゴミの分別
ゴミの持ち帰り

現状はどうなのか？

2002年度の活動： 環境調査票

■ ゴミ処理の現状調査と分析

ケンズカップ・デュアスロン (4月21日)

ママパスタ/トライアスロン (7月6～7日)

ケンズカップナイトトライアスロン (7月20日)

第11回にっぽん音吉トライアスロン美浜大会(8月24日)

ITUトライアスロンワールドカップ幕張大会 (10月6日)

第13回奄美レディストライアスロン (11月10日)

JTU 環境委員会調査票

大会概要	名 称		
	開催日時		気象状況:
	開催地 競技会場	スイム: バイク: ラン:	周囲状況:
	主催・主管		
	協 費		
	参加者	選 手 :	
	実行委員 (運営・マージ等):		
	ボランティア :		
	その他 (来賓・業者等) :	総 数:	
大会資材 (購入・協賛からの提供資材)		資材名ならびに概数	処理方法 (分別状況、最終処理等)
	飲料関係	紙コップ:	分別 (有・無):
		PET 飲料:	分別 (有・無):
		びり状飲料:	分別 (有・無):
その他:		分別 (有・無):	
食料関係	弁 当:	分別 (有・無):	
	その他:	分別 (有・無):	
その他		分別 (有・無):	
ゴミ発生量 ・処理費用	(質量が分かるのが望ましいですが、45Lゴミ袋でXX袋、21cm)分りでY杯等の概略数量がわかる様に記入願います。 処理費用 (わかる範囲で):		
その他	(他大会等に参考となる取り組み等、自由に記入願います)		
調査日		調査者 (所属)	
回答者			

大会で使用される支給
品・資材とその処理に
ついてアンケート実施

2002年度の活動： 環境調査結果1

2002 ITUトライアスロン・ワールドカップ幕張大会 (2002年10月6日開催)

参加アスリート数： 495名(エリート69名 一般426名)

スタッフ数(来賓、委員、ボランティア・業者等)： 約520名

支給品： ボトル類 500ml × 2,640本、1.5L × 800本、2L × 72本
紙コップ 6,000個
弁 当 1,170個

2002年度の活動： 環境調査結果2

飲料関係ゴミ処理

分 別： あり(キャップ、本体、可燃物)

処理者： 千葉トライアスロン連合

弁当ゴミ処理

分 別： あり(区分は不明)

処理者： 千葉マリンスタジアム(弁当支給業者)

2002年度の活動： 環境調査結果3



2002 ITUトライアスロン・ワールドカップ幕張大会

2002年度の活動

第11回にっぽん音吉トライアスロン美浜大会

(2002年8月24日)



99年第8回から海岸のゴミ拾い

2002年度の活動： 各ブロックへのヒアリング1

1. ゴミについての問題点、
2. 取り組み例、
3. 今後の課題

■北海道ブロック：

特に問題なし（昔からゴミ減量を努力している）

■東北ブロック：

1. **ゴミ分別**の徹底が難しい
2. 弁当ゴミが少ないおにぎり、パンなどにする。
クオカードを支給する。スポンジの再利用
3. 大会資材の再利用を目指したい

2002年度の活動： 各ブロックへのヒアリング2

1. ゴミについての問題点、2. 取り組み例、3. 今後の課題

■東京ブロック：

1. 飲食などの**ゴミの処理**に困っている
2. 分別をもっと細かくする必要がある
3. ゴミの持ち帰りを推進したい

■東海ブロック：

1. 大会が終ると**ゴミの山**
2. ゴミの持ち帰りを呼びかけている
3. ゴミになるような大会支給品を減らしたい

■近畿ブロック：

1. **ゴミを捨てる**選手に注意を徹底できない
2. ゴミの持ち帰り、分別を呼びかけている
3. トライアスリートとして社会の健康を考えて欲しい

2002年度の活動：各ブロックへのヒアリング3

1. ゴミについての問題点、2. 取り組み例、3. 今後の課題

■中国ブロック：

1. 大会側、選手、観客の環境に対する意識差が大きい
2. ゴミの持ち帰りを呼びかけている
3. 大会要項やプログラムで環境の大切さを訴えたい

■四国ブロック：

1. ゴミのポイ捨てや残飯処理
2. ゴミの持ち帰りを呼びかける
3. 飲食関係者にもゴミ減量・回収の協力を要請したい

■九州ブロック：

1. ゴミの投げ捨て、残飯処理、分別できないこと
2. ゴミ持ち帰り、投げ捨て禁止の呼びかけ
3. ゴミになるものを配布しない努力をしたい



2002年度の活動： 環境スローガンの作成

どうすればトライアスロンの
環境問題について
意識を持ってもらえるか

環境スローガン作り



2002年度の活動： 環境スローガンの作成

1. 各ブロックにスローガン案を呼びかけ
2. 2003年3月環境委員会で検討、推薦案を作成
3. 理事会承認を経て2003年3月29日総会で報告

2002年度の活動： 環境スローガンの作成

各ブロックより24のスローガンが提案された

猪谷会長案 ・環境の友・トライアスロン

・自然と共存のトライアスロン

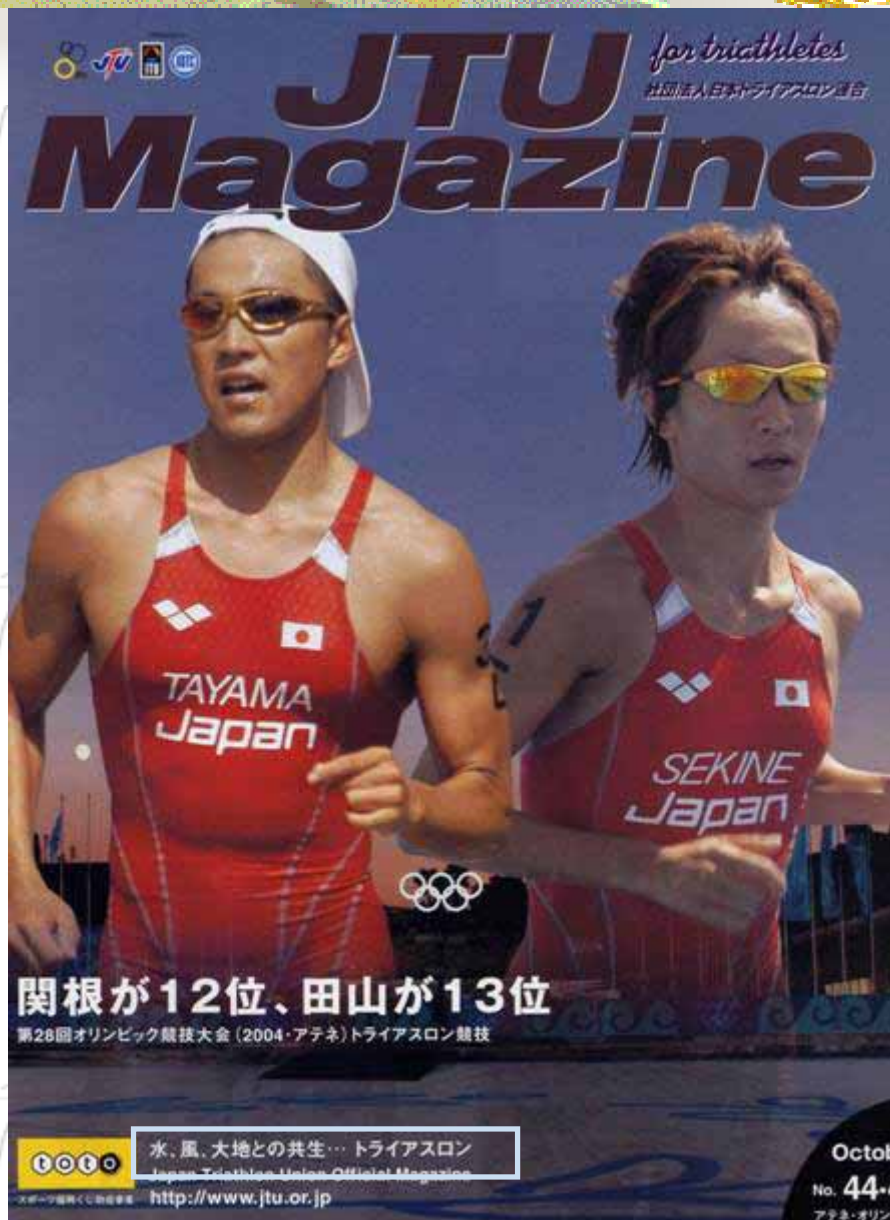
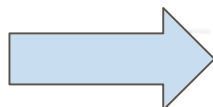
東北ブロック案

水との共生、風との共生、大地との共生・・・

だから環境を守ります

水、風、大地との共生・・・トライアスロン

03年4月 36号より
環境スローガンが
表紙に



04年10月44・45合併号



Tシャツに環境スローガン

2003年度の活動:

- トライアスリートの環境に対する意識調査、分析
(淡路大会、幕張大会、奄美大会、エリート)
- JOCスポーツと環境委員会「スポーツと環境保全
についての調査研究報告」に参加 (2003年12月)
- グローバル・スポーツ・アライアンス主催
G-FORSE会議に出席 (2003年11月)



2003年度の活動： アンケート調査

活動目標：

トライアスリートの環境に対する意識調査

アンケート調査

2003年度の活動： アンケート調査項目

環境全般に関する質問

- 1) 環境問題に関して
 - 1 関心があり、環境に関わるボランティアなどの活動をしている
 - 2 関心があり、ふだんからグリーンマーク利用、分別・リサイクルをしている
 - 3 関心はあるが、特に活動はしていない
 - 4 関心はない
- 2) 環境の3Rに関して
 - 1 知っている
 - 2 聞いたことがあるような・・・
 - 3 知らない

ゴミ問題について

- 1) 競技中の不要物(パンクしたタイヤ、切れたゴーグル等)
 - 1 持ち帰って処分している
 - 2 その場に捨てている
 - 3 競技に夢中でどうしたか覚えていない
 - 4 その他・自由記入
- 2) エードステーションでの紙コップ
 - 1 必ずゴミ箱に入れている
 - 2 ゴミ箱に入れる努力をしている
 - 3 競技に夢中で考えていない
 - 4 その他・自由記入

ゴミ問題について(続き)

- 3) 大会会場でのゴミ
 - 1 なるべく持ち帰っている(会場のゴミ箱は使わない)
 - 2 会場のゴミ箱を利用
 - 3 特に考えたことはない
 - 4 その他・自由記入

JTU環境委員会に関する質問

- 1) JTUに環境委員会があることを
 - 1 知っている
 - 2 知らない
- 2) JTUマガジンに環境委員のコラムがあることを
 - 1 知っている
 - 2 知らない
 - 3 JTUマガジンを読んでいない
- 3) JTUの環境スローガンに関して
 - 1 知っている
 - 2 あることは知っているが、どういう言葉か知らない
 - 3 知らない

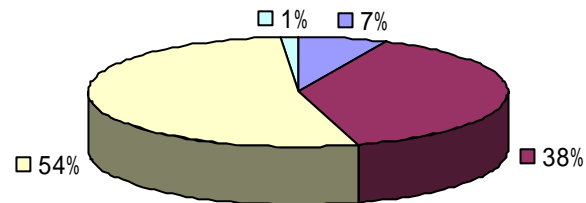
2003年度の活動： アンケート調査対象

大会名 他	開催日	回答数
淡路国際	2003年9月14日	149
幕張新都心	2003年10月13日	295
奄美レディス	2003年10月19日	64
オロロンウィンター	2004年3月3日	38
チームケنزの選手		15

		淡路国際	幕張新都心	奄美レディス	オロロンウィンター	Team Ken's	集計
年 代 別	10歳未満				2		2
	10代	1	4	2	13	1	21
	20代	22	57	13	3	13	108
	30代	43	111	24	6	1	185
	40代	50	78	11	5		144
	50代	12	29	11	6		58
	60代	6	11		3		20
	70代		1				1
	未記入	15	4	3			22
性 別	男性	123	235		22	9	389
	女性	10	29	64	15	6	124
	未記入	16	31		1		48
	合計	149	295	64	38	15	561

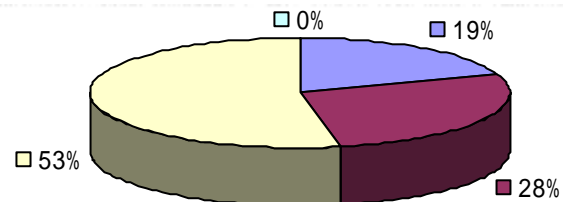
2003年度の活動：アンケート調査結果1

環境問題に関して
(幕張大会での集計結果)



- 関心があり、環境に関わるボランティアなどの活動をしている
- 関心があり、ふだんからグリーンマーク利用、分別・リサイクルをしている
- 関心はあるが、特に活動はしていない
- 関心はない

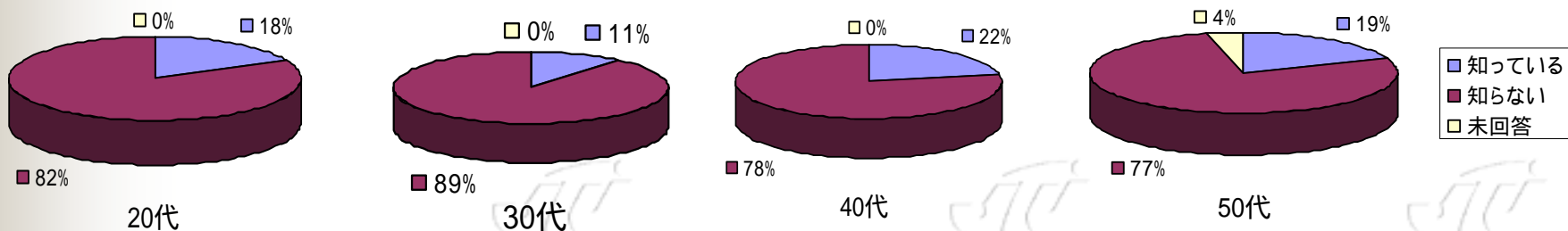
環境の3Rについて
(淡路大会での集計結果)



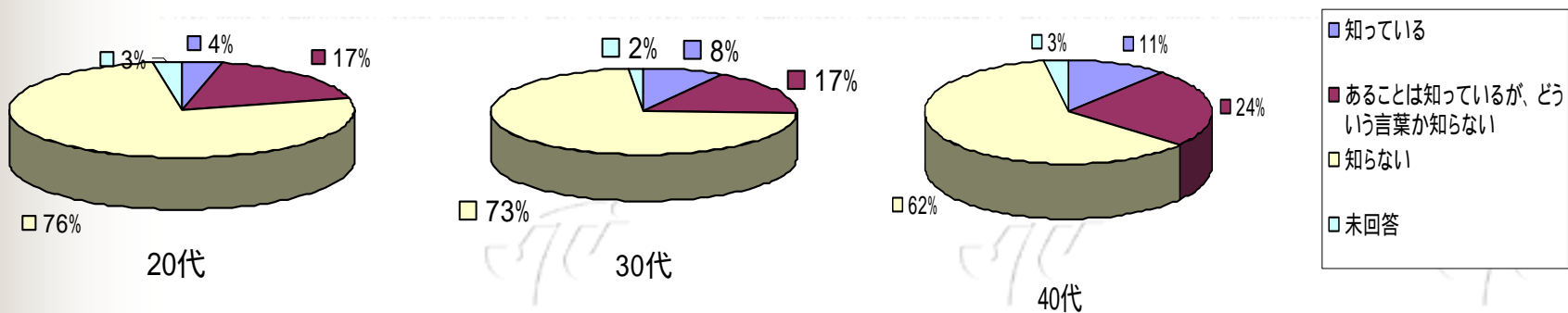
- 知っている
- 聞いたことがあるような...
- 知らない
- 未回答

2003年度の活動： アンケート調査結果2

JTUに環境委員会があることを
(年代別集計)



JTUの環境スローガンに関して
(年代別集計)



2003年度の活動：活動の反省

環境委員会の認知度が低い

2004年度の活動目標

1. アスリート対象のアンケート実施 認知度アップ
2. 他の専門委員会との協力
3. 大会での環境スローガンなどのアナウンス

2004年度の活動： 積極的な対外活動

第10回日本トライアスロン選手権東京港大会

(2004年10月24日)



西内選手、港陽小学校の
子どもたちとビーチクリーンに



2004年度の活動:

第10回日本トライアスロン選手権東京港大会

(2004年10月24日)



2004年度の活動： アンケート調査 2年目

トライアスリートの環境に対する意識調査
(2003年度と同じ内容)

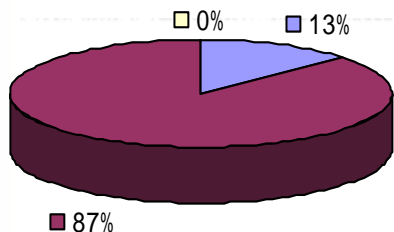
・長良川大会

・淡路大会

・第10回日本トライアスロン選手権東京港大会

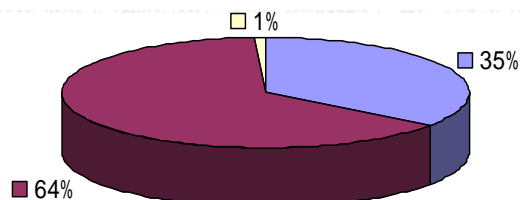
2004年度の活動：アンケート調査結果

JTUに環境委員会があることを
(年度別集計)



淡路大会2003年度

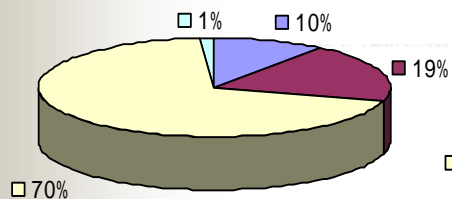
2003年度より認知度が向上



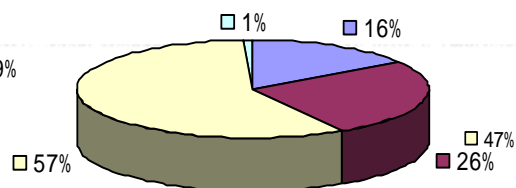
淡路大会2004年度

- 知っている
- 知らない
- 未回答

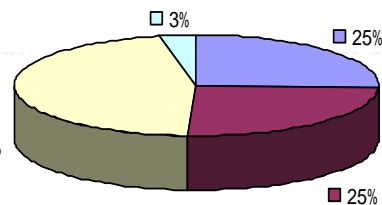
JTUの環境スローガンに関して
(大会別集計2004年度)



長良川大会



淡路島大会



東京港大会

- 知っている
- あることは知っているが、どういう言葉が知らない
- 知らない
- 未回答

JTUマガジンへの寄稿

- 33号 2002年10月 「音吉大会の取り組み」
- 34号 2002年12月 「幕張新都心トライアスロン大会調査報告書」
- 35号 2003年2月 「アンケート結果の報告」
- 36号 2003年4月 「環境委員会への要望」(環境スローガン掲載)
- 37号 2003年6月 「グリーンコード:環境を守るスポーツのために」
- 38号 2003年8月 「未来のアスリートのために」
- 39号 2003年10月 「JTU環境委員会への期待」
:近畿ブロック連絡員 清水正博
- 40号 2003年12月 「逆さま夫婦の泣き笑いトライアスロン」
:中国ブロック連絡員 亀井由美子
- 41号 2004年2月 「トライアスリートへの環境アンケート調査結果1」
- 42号 2004年4月 「トライアスリートへの環境アンケート調査結果2」
- 43号 2004年6月 「奄美レディース大会と環境委員会」
- 44/45号2004年10月 「環境のちょっといい話」

JOCスポーツ環境委員会への活動協力

長良川国際トライアスロン大会（2004年8月1日）



JOCスポーツ環境委員会への活動協力

ポスター掲出: 2004オール・キッズトライアスロン(2004年9月20日)



JOCスポーツ環境委員会への活動協力

第10回日本トライアスロン日本選手権東京港大会(2004年10月23日)



570

570



環境委員会の今後の課題

21世紀のトライアスロンを担う

子どもたちへの環境教育

各ブロック及び他の専門委員会との協力関係の強化

他の競技団体の取り組みの研究

アスリートの環境に対する意識の向上

環境委員紹介

担当理事： 大塚 眞一郎 常務理事・事務局長



担当理事として

この委員会はJTUの未来を担っています。直接競技に関係ない位置付けの活動は初めての施策です。次世代にトライアスロンを継承可能かを占う重要な委員会です。

環境委員紹介

鈴木 信之 委員



現在の日本において環境問題は避けては通れないものになっております。それはスポーツの世界にも進出し、トライアスロン界も同様となっております。トライアスリートがよりよい環境、状況で競技できる様にと願っております。

環境委員紹介

豊原 秀史 副委員長



エンジニアリング会社で環境
関連機器の設計をしています。
資源とエネルギーの有効利
用、そして地球環境のためにも
一人ひとりがゴミを減らす
努力をしていただければと思
います。

環境委員紹介

松生 治子 委員



近年人間の便利な生活の代わりに、自然を破壊してしまった。トライアスロンは、自然環境無しでは行えない競技である。この競技を愛する者として、少しでも自然の恵みを取り戻したく、環境活動を行っております。

環境委員紹介

森重 寛 委員



地球すべての環境が私たちの
トライアスロン・フィールド
です。
ひとり一人が何から始めるか、
一緒に考えましょう

環境委員紹介

吉田 潤一 委員



選手との出会いの場から一人一人、心の中に「やさしい種」を蒔いていけたらと思っています。

環境委員紹介

和田 恵子 委員長



トライアスロンのための、そして地球のための環境。できることから今すぐに始めることが大切だと考えます。

「混ぜればゴミ、分ければ資源」

ご清聴
ありがとうございました

